



華やかさの中にも、郷愁にかられる「トロッコ流しと花火の夕べ」。トロッコ流しは、正保2(1645)年、舟運にかかわった物故者の霊を慰めるために、川施餓鬼供養とともに灯ろうが流されたのが始まりとされる(16日の送り盆にも行われている)

先人から受け継いだ 民俗芸能の魂 ゆっくりと しっかりと 次代に引き継いでいく 北上・みちのく芸能まつり

北上を代表する夏の風物詩
「北上・みちのく芸能まつり」は
8月1日～3日
市内各地で繰り広げられました。
48年の歳月を重ねてきた芸能まつり。
市民や訪れる人たちに
親しまれ育ってきました。

民俗芸能団体にとっても
発表の場として大切な機会となっています。
参加することを目標としている
励みとしている団体もあります。
今回も
先人たちから受け継いできた民俗芸能を
引き継いでいく子どもたちが舞っていました。



衣川剣舞や朴ノ木沢剣舞との交流が伝わる。また川岸剣舞の流れともいわれ、昭和30年ごろ復活した「立花念仏剣舞」



市民パレードも新たな芸能？！



昭和52年に復活した「谷地鬼剣舞」。心と目に焼き付ける



昭和20年代の初めに草刈場大神楽(廃絶)から伝授。中断していたが、平成2年に復活した「八谷崎大神楽」



延宝元(1673)年、神御堂建立の余った木で作った「エンブリ」で踊ったのが最初といわれる。昭和21年に復活した「荒屋田植踊」



昭和43年初演。61年に岩崎鬼剣舞から相伝され、平成12年には滑田鬼剣舞から4演目伝授の認定書を受けている「肉鬼剣舞」

修行の決意を示すため左腕を断ち、達磨大師の門弟の高僧神光が、布教のために名号を唱えて踊ったのが「道地ひな子剣舞」といわれる。左手を使わないのはそのためと伝わる「道地ひな子剣舞」

